

「多久の未来を教育で創る」

子どもたちの可能性を開く「義務教育学校」

昨年4月から義務教育学校としてスタートした多久市の新たな教育。新しい年度にあたり、文教の里・多久市の重要な政策のひとつである教育への取り組みを、市長と教育長が語ります。

■義務教育学校2年目の思い

市長／多久の子どもたちが世界中のどんな人と机を並べても「しっかりとした教育を受けてきた」と胸を張れるようにと思い、教育に力を入れてきました。

「日本一の小中一貫校づくりを実現する」と目標を掲げ、2013年4月から全市をあげて取り組み、昨年4月からは国の制度開始に合わせ「義務教育学校」をスタートし、国や文部科学省から高い評価をいただいています。

教育長／遠足に同行した際、歩き疲れた1年生を9年生の男子がおんぶし、5年生の子たちが荷物を持ってあげている姿や後期課程の男子と女子が1年生の手を繋いで家族のように歩いている姿に大変感激しました。

このように小中一貫校教育の効果として、中学生世代に「優しい心」が育まれているのを感じています。

■平成30年度の教育方針は

教育長／自分に誇りを持てる、自己肯定感の高い子を育てるため、学び方を身に付ける教育に取り組めます。

理解したことは、みんなと分かち合うことが重要。子どもたちがお互いに教え合うことで、学ぶことの楽しさを身に付けて欲しいですね。

小中一貫教育の導入前3年、その後の3年の補導件数を比べると、65件が18件に減りました。しかし、不登校は15・7人が15・3人に減っただけです。原因を探り、子と親と一緒に、予防と対策に力を注ぎます。

学力の向上も30年度の大きな目標です。

また、教職員の働き方を見直し、ICTを導入しました。作成したデータを安全なクラウド上で管理し、どこからでもアクセスを可能にしました。さらに、市教委への提出物を激減させました。その時間を先生には子どもと触れ合い、

変化に気付く時間にしてほしいものです。「はじめの見のし」は「ゼロ」にしたいものです。

市長／全国ICT教育首長協議会会長も務めており、ICT導入による基礎力の向上を図るとともに、自然にふれ、他者を労る気持ちなど、人間性を磨くことも大事にしたいですね。

総合教育会議で、市と教育委員が密接に連携し、教育の充実に努めています。

■明治維新150年を

迎えるにあたって

市長／「肥前さが幕末維新博覧会」

